

日本人サッカー指導者における 海外コーチング活動に関する事例研究

海外指導に影響する要因の検討

コーチング科学研究領域

5023A041-0 張 原赫

研究指導教員：堀野 博幸 教授

はじめに

本研究は、近年増加する日本人サッカー指導者の海外進出に着目し、彼らの海外指導経験から得られる促進要因と阻害要因を明らかにすることを目的とする。公益財団法人日本サッカー協会（JFA）が進めるアジア貢献事業をはじめとする国際的な取り組みを背景に、ますます多くの指導者が国外で活動を展開している。

一方で、言語の壁や異文化環境、選手のレベルや意識の違いなど、多岐にわたる課題に直面することも指摘されている。先行研究では、指導者の海外赴任動機やその後の経験がキャリアに与える影響が議論されてきた。本研究は、これらの知見を体系的に整理するとともに、海外指導を目指す指導者に対して実践的な知見を提供することを目的とする。具体的には、海外指導経験を有する日本人サッカー指導者を対象に、彼らの経験から得られる内容を分析し、海外指導に影響を与える促進要因と阻害要因を明らかにする。

方法

1. 調査対象と調査方法

調査は、2024年3月から5月の間に実施した。調査対象は、海外で指導経験を有しており、日本サッカー協会公認ライセンスであるS級資格保有者である2名であった。調査では、半構造化面接法に基づくインタビュー調査を実施した。インタビュー時間は1人あたり60分程度であった。

表1 A氏プロフィール

指導者ライセンス	日本サッカー協会 S級ライセンス
サッカー指導歴	育成からトップレベルまで
赴任国	Z国
海外指導期間	1年
赴任国FIFA順位	中位国

表2 B氏プロフィール

指導者ライセンス	日本サッカー協会 S級ライセンス
サッカー指導歴	育成からトップレベルまで
赴任国	X国
海外指導期間	2年
赴任国FIFA順位	下位国

2. 分析方法

インタビュー音声を対象者の承諾を得たうえで、ICレコーダーに録音後、音声データは速やかに文字起こしを実施した。得られたデータを逐語録として転記し、ナラティブ分析のテーマ分析を用いて、Orlowski et al (2018) を参考に、インタビューから浮かび上がるテーマを特定して整理した。

表3 海外指導に影響を与える要因

(1) 仕事関連要因	契約相関、スポーツ組織相関、クラブとの関係、コーチが理解・支持されているかどうかに関すること。
(2) 社会的要因	家族や友人など、個人の社会的な支えの存在に関する関すること。
(3) 競争的要因	コーチング環境や選手に関する関すること。
(4) 新しい体験の追求	新しい文化への適応、海外チャレンジ、言葉に関する関すること。
(5) ネットワーク	職業的なつながりや人脈がキャリアの継続に関する関すること。

Orlowski et al. (2018) の研究より著者作成

結果

A氏とB氏の語りから収集したデータは、全体で62のサブテーマに分類された。これらは、仕事関連要因（23件）、社会的要因（3件）、競争的要因（10件）、新しい経験の追求（22件）、およびネットワーク（4件）のテーマに整理された（Orlowski et al. , 2018）。また、分類が困難なサブテーマが1件存在したため、新たに「その他」のテーマを追加し、そのサブテーマをこの「その他」のテーマに分類した。さらに、海外指導における段階については、「海外赴任前」「海外指導期間中」「海外指導終了後」の3段階に区分した。表4、5は結果の一部を表す。

表4 A氏《海外赴任前》

テーマ	サブテーマ	語り
仕事関連要因	就労ビザ問題	契約後のビザ申請で問題があった。
新しい体験の追求	海外にチャレンジ	海外と交流、海外にチャレンジという思いが強い。
	国・地域への貢献	子供たちを成長させて、その地域・国に貢献する。
	評価されたい	指導を行う地域や国で、地元の人々から認められ、良い評価を得たい。
ネットワーク	知人の紹介	人の紹介を通じて、海外指導を始めた。
社会的要因・競争的要因	なし	なし

表5 B氏《海外赴任前》		
テーマ	サブテーマ	語り
仕事関連要因	アジア貢献事業	アジア貢献事業に関心を持ち、赴任の数年前から海外赴任の機会について相談していた。
	二国サッカー協会連携OK	JFAとX国サッカー協会の間で手続きが整い、指導者派遣が円滑に行われていた。
	就労ビザ問題	就労ビザの取得は、他国ほど大きな苦労はなかった。
競争的要因	海外指導の目標	海外で初勝利を目指し、その達成に向けて強化に取り組んだ。
新しい体験の追求	指導力チャレンジ	自分を全く知らない環境で1から始め、指導力を試したいという思いがあった。
	海外で学ぶ	海外で学びながら日本との違いを比較し、指導者として新たな知見を得ることが自身の成長につながった。
社会的要因・ネットワーク	なし	なし

考察

1. 対象者 A の考察

A 氏の海外指導における阻害要因と促進要因を総合的に考察した結果、以下の点が明らかになった。まず、阻害要因としては、「就労ビザの問題」「契約不履行」「給料未払い」などの契約関連の課題が指摘され、これらは A 氏の精神的負担を増大させるだけでなく、指導へのモチベーションを著しく低下させた。また、クラブ内の「人間関係悪化」「指導理念の衝突」「スタッフの協力不足」といった環境面の問題が、指導活動の円滑な進行を妨げた。さらに、「言葉の壁」「JFA 支援の欠如」も大きな障害となり、新型コロナウイルスによる「再入国不可」といった不可抗力的要因も海外指導を断念させる直接的な要因となった。一方で、促進要因としては、選手の成長を見守る喜びや、未知の環境への挑戦、地域貢献への意欲が挙げられる。また、「知人の紹介」を通じたネットワークの活用が、海外での指導機会の獲得に寄与した。

2. 対象者 B の考察

対象者 B 氏の海外指導における促進要因と阻害要因を総合的に考察した結果、以下の点が明らかになった。まず促進要因としては、「アジア貢献事業」や「二国サッカー協会連携 OK」など、公式なサポート体制や組織間の連携が B 氏を支え、スムーズなビザ取得といった手続きも海外指導を促進した。しかし、「コーチング環境」や「理想と現実のギャップ」からは、予想以上に劣悪な環境に直面したことによる喪失感や虚しさ、さらには理想との乖離が彼の指導活動において阻害要因として働いたことが示唆される。そして、「ネクストキャリアの話」「日本情報の不足」「忘れ去られる不安」など、キャリア形成への不安や、日本での活用意識が海外指導の継続には障害

となり、また大使館の不在も指導活動の阻害要因となった。そのうえで、「孤立感」や「日本人ひとり」、また「王様」「階級が存在」「国民性」「文化の違い」といったテーマが、異文化の環境でストレスや心理的負担の増加が海外指導の阻害要因となった。

一方で、「選手のため」「得るものが大きかった」「海外で再挑戦」など、目標未達成の中で学びや成長が得られたことが強調された。そして、「自身のグローバル化」や「一緒に仕事したい」のようなネットワークの拡大および活用も、B 氏に海外指導の促進を向上に寄与したことが分った。また、「新たな目標」や「新たなサッカー環境」に挑戦する意欲が B 氏の海外指導への前向きな姿勢を支えており、異文化理解や現地文化を学びながら成長していく姿勢が、海外指導の促進要因となることが示唆された。

3. 総合考察

本研究は、日本人サッカー指導者が海外指導において得た経験を明らかにすることを目的とし、A 氏と B 氏へのインタビュー調査を基に促進要因と阻害要因を分析した。その結果、海外指導はキャリア発展の重要な局面であり、多様な経験を通じて自己成長を促す貴重な機会であることが示された。促進要因として、明確なキャリア目標、指導成果の達成感、異文化への積極的な挑戦が指導を支える要素として確認された。A 氏は選手の成長を通じて指導力の肯定を得る喜びを感じ、B 氏は異文化体験を通じて指導力への自信を深めた。一方、阻害要因として、文化への適応の困難さ、現実のギャップが挙げられた。A 氏は人間関係を課題とし、B 氏はコーチング環境における理想との乖離を指摘した。

また、促進要因と阻害要因が動的に転換し得ることが確認され、海外指導が日本人サッカー指導者にとって挑戦と成長の場であると同時に、キャリア形成に多大な影響を与えることが明らかになった。

今後の課題

本研究では、日本人サッカー指導者が海外で得た経験を通じて、促進要因と阻害要因を明らかにしたが、阻害要因への具体的な対処法については分析が不足している。今後の課題は調査対象を拡大し、現在海外指導中の指導者へのインタビューを行う予定である。さらに、これらの知見を基に、海外コーチングモデルの構築を目指す。